

抹茶パウダー生産専用機械設備導入による生産性向上から抹茶の海外展開へ

株式会社 ひかわ

対象類型

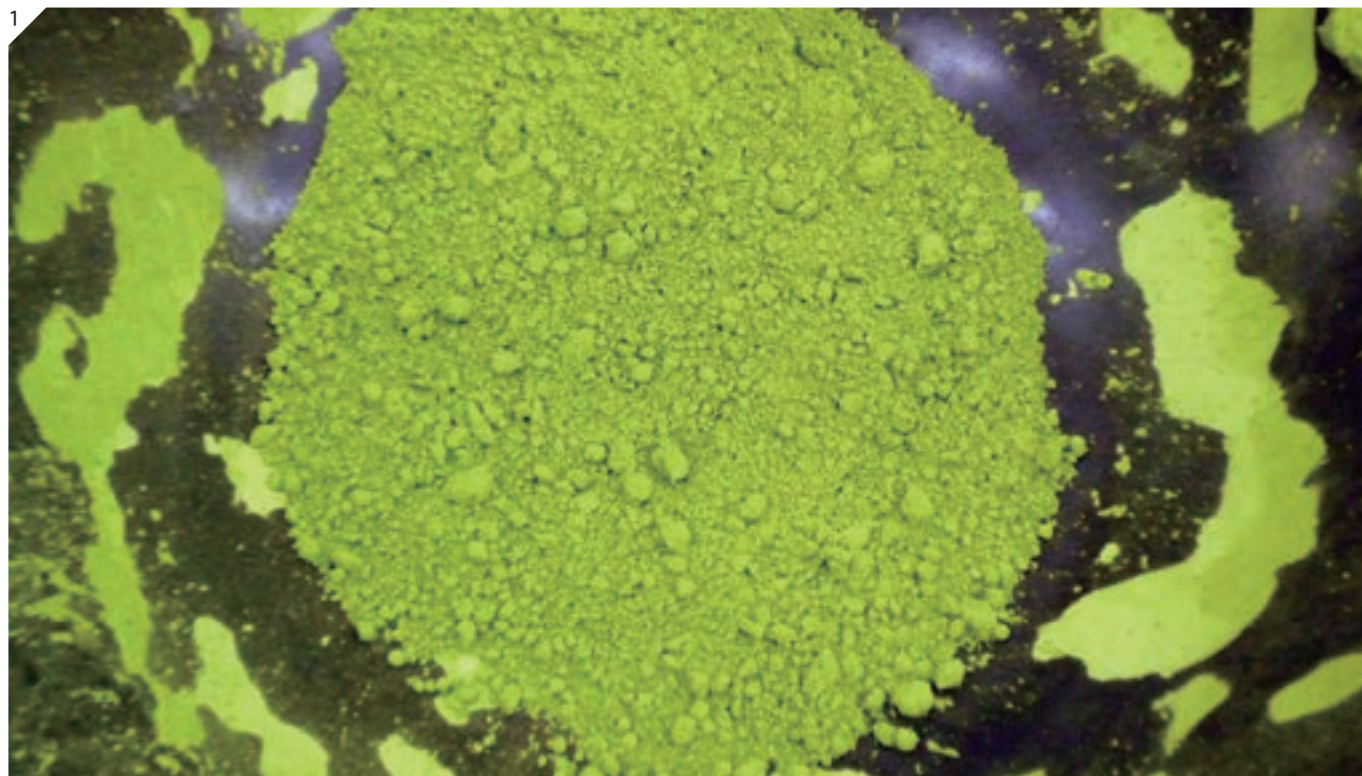
ものづくり技術

競争力強化の形態

省力化

目的

生産性向上



1：抹茶パウダーは世界へ販売される

2、3：本事業で導入した粉碎機

4：粉碎前のお茶の葉

抹茶の世界進出に向けた抹茶パウダー量産化

昭和46年創業の株式会社ひかわは、地元島根県をはじめ静岡県、京都、鹿児島、福岡などから厳選した茶葉を原料としたお茶関連製品をOEM生産してきた。顧客先は国内をはじめとする大手飲料メーカーを中心に、近年では個人客への提供も行っている。

本事業は、海外の飲料メーカーから相談があり、抹茶パウダーの量産化に取り組んだ。当社は今まで抹茶のパウダー製造の経験は無く、今回の相談があったことで、初めての試みとして既存設備を使用し行なった。結果的に高評価を得ることが出来、本格受注への方向性が決まった。

しかしながら、当社には抹茶パウダー用の量産設備がなかったため、大量生産時の品質確保が困難であった。そこで本事業を利用して、大量生産に対応できる抹茶パウダー専用設備を導入することとした。

設備導入後、茶葉の種類やブレンド比率の変化など、テストを繰り返すことで顧客の要望する抹茶パウダー試作を行った。試作当初は茶葉の特性などを把握することが困難で想定通りの抹茶パウダーを完成することが出来なかったがオペレーターによる工夫の繰り返しによって、茶葉の性質を考慮した加工技術を習得した。

主な成果

- ・ 良質な抹茶パウダーの量産化が可能な体制構築
- ・ 取引先への積極的な提案ができる環境

本事業の成果

抹茶パウダー製造技術の習得

本事業での取り組みによって、これまで当社が経験していなかった抹茶パウダーの生産ノウハウを得ることが出来た。設備導入と共に、テスト繰り返しによる茶葉のブレンド技術習得は、今後の商品開発にも大きく役立つ事が予想される。

今後の展望

抹茶を世界に！ 日本文化の味と風味を 広げる新展開

日本市場では、抹茶を使用した商品が数多く並んでいるが海外でも同様に抹茶の需要が広がっている。国内外問わず日本文化の魅力に注目が集まる中、抹茶は日本を代表する存在と言っていい。その影響もあり、抹茶に関わる商品の数は右肩上がりであり、その売れ行きも伸びている。当然当社の生産する高品質な抹茶パウダーにも国内外様々な食品メーカーが注目をしており、出荷量の増大が期待される。

海外向けの飲料用抹茶の製造を開始し、約2年が経過しました。本商品の売れ行きは好調で、今年に入ってから実績は伸びています。

また、海外における濁り飲料は、新商品として市場に導入されてきております。その濁り飲料用パウダーの技術を有する当社に依頼が来ており、設備の稼働率は上がってきています。また、ペットボトル飲料だけではなく、輸出用の青汁原料として大麦若葉のパウダー加工の仕事も新規で依頼を受けており、設備の追加も考えていくまでとなっております。

代表取締役

加藤 和 正

5



5：通常設備の一つロータリー式自動充填機

6：出雲市斐川町の本社と工場

6



株式会社 ひかわ

代表者名：代表取締役 加藤 和正

設立年月日：昭和46年2月17日

資本金：10,000千円

従業員数：85人

業種：飲料・たばこ・飼料 製造業

企業規模（売上等）：3,303百万円

住所：〒699-0631 出雲市斐川町直江2620-2

電話：0853-72-2134

FAX：0853-72-8279

URL：www.hikawa-tea.co.jp